

井上



2022年 活動報告 埼玉県議会議員 県政報告

和光市の皆さまにお配りすること16年!

県議会議員としても12年目に突入です!

無所属 42歳

あなたは **226万2545** 番目の読者です

前号までにお届けした枚数です

わたるの配る ホームページ 第81号



身近な

これまで「身近な和光の県政」と題して「県警編」「児童福祉編」「河川事業編」をお伝えしてきました。今号は「**県立高校編**」をお伝えします。



井上 ブログ



Twitter



Facebook

発行元 埼玉県議会議員 井上わたる事務所
連絡先 (埼玉県議会 無所属県民会議 和光支部)

〒351-0112 埼玉県和光市丸山台1-10-18
アントワープ平岡401号室
TEL:048-424-3684 / FAX:048-424-3854
E-mail : inoue_airline@yahoo.co.jp

和光の
県政

～県立高校編～

新型コロナ対策など日々状況が変わる【最新情報】は引き続きネットを活用してお伝えします! ぜひご覧ください!

去る7月14日に埼玉県教育委員会が「魅力ある県立高校づくり第2期 実施方策(案)」を発表しました。その中に「**和光国際高校**」と「**和光高校**」の統合(再編整備)による新校設置構想が示されました。

魅力ある県立高校づくり
第2期実施方策(案)
埼玉県教育委員会HPより



和光高校

市民の皆さまの中には、現在通学中の生徒さん、保護者の皆さま、卒業生(OB・OG)、そして近隣地域の方々など、この2校に関わりのある方が大勢いらっしゃいます。その皆さまが様々な想いを抱かれると思います。そこで、県教育委員会がまとめた「**これまでの検討経過**」と「**今後の検討の進め方**」を、私から少しでも分かりやすくお伝えできればと思います。



再編整備の進め方

埼玉県教育委員会は、平成30年4月に「魅力ある県立高校づくり実施方策策定に向けて」(以下、「再編整備の進め方」)

魅力ある県立高校づくり
実施方策策定に向けて
(再編整備の進め方)
埼玉県教育委員会HPより



という文書をまとめました。この「再編整備の進め方」には、

- 今後の公立中学校卒業生数を予測すると、平成29年3月から平成41年(令和11年)3月までの12年間で、約62,000人から約56,000人へ約6,000人減少が見込まれています。
- そのため、県立高校の教育の活性化の観点から、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の状況や取組なども考慮しながら近隣の学校との統合などを検討すると記されています。



<参考情報>

少子化などの影響で全体的に学生数は減っています。ピーク時の学生数と今年度の学生数を比べると、平均でも「マイナス40%」まで減っていますが、**和光国際高校はそれでも「マイナス16.2%」に留まる一方で、和光高校は「マイナス66.4%」**となっています。

『第1期』策定

この考え方に沿って県教育委員会は、令和元年12月に「魅力ある県立高校づくり第1期 実施方策」(以下、「第1期」)を公表しました。その中で発表されたのが

- 飯能高校と飯能南高校の統合
- 児玉白楊高校と児玉高校の統合 です。



再編整備を行う高校数・地域バランス

県がまとめた「再編整備の進め方」には、

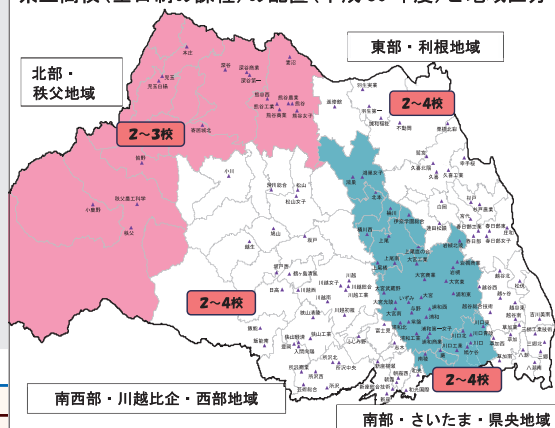
- 魅力ある県立高校づくりの観点から、県立高校の全日制課程の学校数を今後3期程度に分けて、平成41年(令和11年)4月を目途に現在の134校を121~124校程度とすることが必要と考えています。

そのため、高校の現状や地域バランスを考慮し、

- 南部、さいたま及び県央地域からは2~4校
 - 南西部、川越比企及び西部地域からは2~4校
 - 東部及び利根地域からは2~4校
 - 北部及び秩父地域からは2~3校
- の再編整備を行うことを検討していきます。と記されています。



県立高校(全日制の課程)の配置(平成30年度)と地域区分等



再編整備を検討する「観点」と「対象校」

「再編整備の進め方」には、どのような観点で対象校を検討するかも記されており、

- ① 生徒募集が困難な状況にあり、かつ、将来もその傾向が続くと見込まれることから、教育の活性化のため、適正な学校規模を維持する必要がある。(進路希望状況調査や入学志願倍率、地域の生徒減少率、募集学級数等を参考にする。)
- ② 地域・県民の期待や社会のニーズに対応した特色ある学校を設置する必要がある。
- ③ 近隣に同様の教育内容を持つ学校・学科が存在するため、活性化・特色化を図る必要がある。



という、3つの観点で選定作業が進められました。
以上の経緯を踏まえ、今回の「第2期実施方策(案)」では、

和光国際高校と和光高校の統合

秩父高校と皆野高校の統合

岩槻高校と岩槻北陵高校の統合

越生高校と鳩山高校の統合

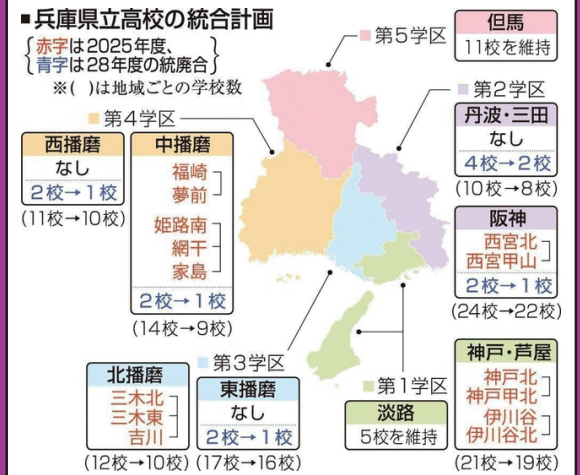
八潮南高校と八潮高校の統合

大宮工業高校と浦和工業高校の統合

を行う方針が打ち出されました。

<参考情報>

埼玉県では、第1期も第2期も「どちらかの高校をベースにして残す」という統合方法を取っています。例えば、先日、埼玉県と同じく県立学校の再編計画を発表した兵庫県でも、このような方法が取られています(下記図参照)。生徒数減少の著しいほうの学校を単純に閉鎖するのではなく、その学校の近隣の高校との「統合」という形で高校の数を絞っていく方法は全国的な傾向となっています。



「県立高校の特色化」と「和光新校の特色」

県教育委員会は「再編整備の進め方」の中で「これからの県立高校においては、時代の要請に応えられる創造性豊かな人材を育成するため、一層の活性化・特色化を図り、それぞれの学校のブランド力を高める必要があります。」としています。単に数を減らすための統廃合ではなく、それぞれに合併後の新校に「特色」を持たせることを目指しており、和光新校の場合は、**国際感覚を身に付けたグローバル人材を育成する高校の設置**を特色に掲げるとのことです。

国際感覚を身に付けたグローバル人材を育成する高校の設置

和光国際高校と和光高校の統合

新校の概要

国際に関する学科及び普通科の併置校として、和光国際高校と和光高校を統合し、現在の和光国際高校の場所に新校を設置します。

新校の基本方針

- ◆ 国際感覚や語学力を身に付け、国内外で活躍できるグローバル人材の育成を目指します。
- ◆ 自国の伝統や文化を理解し、異なる文化や価値観を尊重する態度を育成するとともに、SDGsなどの地球規模の課題の探究活動に取り組みます。
- ◆ 国際に関する学科の中心的役割を担う高校を目指します



<参考情報>

和光新校の目指す「国際感覚を身に付けたグローバル人材を育成する高校の設置」のほか、

- アニメーション・美術分野で活躍できる人材を育成する高校の設置
 - ビジネス分野で活躍できる人材を育成する高校の設置
 - 先端産業分野で活躍できる人材を育成する高校の設置
- も目指すとしています。



新校開校までのスケジュール

和光新校は、令和8年度の開校を目指しています。今後のスケジュールは下記のとおりです。

設置時期

- 新校は、令和8年度に開校します。

生徒募集について

- 新校は、令和8年度入学者選抜から生徒募集を行います。
- 和光国際高校は、令和7年度入学者選抜まで生徒募集を行います。
- 和光高校は、令和5年度入学者選抜まで生徒募集を行います。

	令和5年度 入学者選抜	令和6年度 入学者選抜	令和7年度 入学者選抜	令和8年度 入学者選抜
新校				○
和光国際高校	○	○	○	
和光高校	○			

意見募集(県民コメント)を実施します

魅力ある県立高校づくり第2期 県民コメント

検索

それぞれの学校は現役の学生、教職員だけでなく、保護者や地域住民、OB・OGといった多くの方々によって支えられています。ここまで県教育委員会が発表した新たな再編整備(案)をご紹介してきましたが、この計画にご意見がある方もいらっしゃると思います。そこで県民の皆さまのご意見を反映するため、県教育委員会は「埼玉県県民コメント制度」に基づき意見募集を行いますので、ご意見が有る方は是非ご活用ください。



意見募集期間

令和4年7月19日(火曜日)～令和4年8月18日(木曜日)

当日
消印有効

資料の入手方法・詳細説明

埼玉県のホームページから入手・確認できます。QRコードからご覧ください。



※このチラシの配布時期によっては、上記のコメント制度の受付が終了している場合もございます。予めご了承ください。